

平成26年10月作成版

平成27年10月作成版

●医薬品や家庭で使用する医療機器について
 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)医薬品・医療機器相談窓口

くすり相談
 薬の使用方法、副作用、飲み合わせやジェネリック医薬品に関する相談
 ☎ 03-3506-9457

医療機器相談
 家庭で使用する医療機器の使い方の注意など
 ☎ 03-3506-9436

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:00～17:00
 ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp>

●医薬品等による副作用被害や感染被害などを救済する制度について
 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)健康被害救済部救済制度相談窓口

☎ 0120-149-931（フリーダイヤル）

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:00～17:00
 ホームページ <http://www.pmda.go.jp>
 E-mail kyufu@pmda.go.jp

おくすり情報
 薬に関する法令・通知、統計、経緯発表など、おくすり情報のポータルサイト
 ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/okusuri/index.html>

■「シシット」は、グリブ入薬（錠剤）による健康被害等の調査の迅速化を図る必要があることに基づく基本方針の枠組みに基づき実施されています。
 ■「シシット」は、グリブ入薬（錠剤）による健康被害等の調査の迅速化を図る必要があることに基づく基本方針の枠組みに基づき実施されています。

平成26年10月
 厚生労働省 日本薬剤師会

●医薬品や家庭で使用する医療機器について
 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)医薬品・医療機器相談窓口

くすり相談
 薬の使用方法、副作用、飲み合わせやジェネリック医薬品に関する相談
 ☎ 03-3506-9457

医療機器相談
 家庭で使用する医療機器の使い方の注意など
 ☎ 03-3506-9436

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:00～17:00
 ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp>

●医薬品等による副作用被害や感染被害などを救済する制度について
 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)健康被害救済部救済制度相談窓口

☎ 0120-149-931（フリーダイヤル）

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）9:00～17:00
 ホームページ <http://www.pmda.go.jp>
 E-mail kyufu@pmda.go.jp

おくすり情報
 薬に関する法令・通知、統計、経緯発表など、おくすり情報のポータルサイト
 ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/okusuri/index.html>

■「シシット」は、グリブ入薬（錠剤）による健康被害等の調査の迅速化を図る必要があることに基づく基本方針の枠組みに基づき実施されています。
 ■「シシット」は、グリブ入薬（錠剤）による健康被害等の調査の迅速化を図る必要があることに基づく基本方針の枠組みに基づき実施されています。

平成27年10月
 厚生労働省 日本薬剤師会

薬の正しい使い方 その2

薬の正しい保管のしかた

子供の手の届かないところに保管
 子供の誤飲事故のうち、医薬品・医薬部外品によるものが約15%に上ると報告されています※。誤飲を防ぐために、薬は子供の手の届かぬところに置きましょう。
 ※厚生労働省「家庭用品等に係る健康被害調査モニター報告」（平成24年度）

湿気、日光、高温を避けて保管
 薬は湿気や光、熱によって影響を受けやすいため、保管には注意が必要です。容器のふたや栓を固く締め、直接日光が当たらない、かつ暖房器具などから離れた場所に保管しましょう。また、冷蔵庫で保存するように指示された薬は、凍らせないように注意しましょう。

古い薬は廃棄する
 薬は時間がたつと分解したり、場合によっては成分が変質して本来の効果が得られないものもあります。そのため、有効期間を過ぎたものや、見た目に異常がある薬は使用しないようにし、捨てましょう。

その他、誤って使用しないよう、食品、農薬、殺虫剤などと一緒に保管したり、他の容器に入れ替えて保管しないようにしましょう。

Q3. どれくらいの量の水で薬を飲めばよいですか？
 A3. コップ1杯の水で飲むのが目安です。少量の水では、薬がのどや食道に張り付いて炎症や潰瘍を起こすことがあります。なお、医師から水分摂取の制限を指示されている方は、その指示に従った飲み方をしてください。



薬の正しい使い方 その3

薬は正しく保管しましょう

子供の手の届かないところに保管
 子供の誤飲事故のうち、医薬品と医薬部外品によるものが18.1%にのぼると報告されています※。
 ※厚生労働省「家庭用品等に係る健康被害調査モニター報告」（平成25年度）

誤飲を防ぐために、薬は子供の手の届かぬところに置きましょう。服用後の戻し忘れも気をつけましょう。

◆年齢や発達段階によって行動特性は変化します。例えば、1歳以降になると、子ども自身が踏み台などを使って、保管場所から取り出してしまうケースも報告されています。

◆重い中毒症状がでる可能性の高い薬（例：向精神薬、気管支拡張剤、血圧降下剤及び血糖降下剤）については特に厳重に管理しましょう。

誤飲してしまった場合
 万が一、誤飲した場合には、子どもの状態や薬の名称、飲んだ量を確認した上で、直ちに専門の相談機関に連絡し、必要に応じて医療機関を受診してください。

相談機関（情報提供料：無料）
 「小児救急電話相談」
 連絡先 ■午前00（全国同一）の短番専用；お住まいの都道府県の相談窓口
 に自動転送されます
 「中毒110番・電話サービスの利用方法（一般専用）」
 連絡先 ■大阪府中110番（365日24時間対応）072-727-2499
 ■つくば中110番（365日9時～21時対応）029-852-9999

Q4. ジェネリック医薬品とは何ですか？
 A4. ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、先発医薬品の特許が切れた後に、別のメーカーから販売される、先発医薬品と同じ有効成分を使った薬です。どちらも医師に処方してもらった薬で、厚生労働大臣が承認したものです。

<ジェネリック医薬品のメリット>
 ○先発医薬品より価格が安く、患者さんの薬代の負担が軽くなります。
 ○国の医療費の支出を抑えます。

<ジェネリック医薬品を使うには>
 ○かかりつけの医師や薬剤師に相談しましょう。
 ○薬局でジェネリック医薬品に変更することも可能です。
 ※医師の判断で変更できないこともあります。
 ※すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

<ジェネリック医薬品について知りたいときは>
 厚生労働省 ジェネリック 検索